

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 46号

2013/04/29 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：先週の上昇傾向が一段落し、今週は上値は重い状態で推移。

①週最高：LDN 市場£1,555 / NY 市場\$2,364 (4/25、4/26)	先週比 LDN+£0/NY+\$31
②週最低：LDN 市場£1,537 / NY 市場\$2,310 (4月22日)	先週比 LDN+32/NY+\$43
週内差額 (①-②)：LDN 市場£18 (傾向↑) / NY 市場\$54 (傾向↑)	

【4月22日(月)】NY、LDN両市場とも反落、利益確定売りで
北米ココア圧砕高統計が予想を上回り、4カ月ぶりの高値を先週付けた後、利益確定売りが出て、ニューヨーク市場は1カ月ぶりの下落幅を記録した。
ニューヨーク市場の7月きりは23ドル(1.0%)安の**2310ドル**で終了。3月末以来、1日の下落幅としては最大となった。19日には4カ月ぶりの高値となる2348ドルを付けていた。
シティグループ(シカゴ)の先物専門家、スターリング・スミス氏は、「2400ドル付近で多くの売りが出ている。相場が上昇したため、この水準で利益を確定するつもりだ」と話した。
7月きりは3月上旬の安値となる2046ドルから約13%高となった。ロンドン市場の7月きりは18ポンド(1.2%)安の**1537ポンド**で引けた。一時昨年12月以来の高値となる1561ポンドを付けていた。

【4月23日(火)】両市場とも一時4か月ぶり高値
チャート面で引き続き強気相場が示唆されていることを背景に続伸、両市場ともに一時4か月ぶりの高値を付けた。
ニューヨーク市場の7月きりは一時2355ドルと、昨年12月以来の高値まで上伸。終値は17ドル(0.7%)高の2327ドルだった。
ロンドン市場の7月きりは13ポンド(0.8%)高の1550ポンドで終了。一時1569ポンドと、昨年12月以来の高値まで上昇する場面もあった。エコバンクのソフト・コモディティ・リサーチ部門の責任者、エドワード・ジョージ氏は、「西アフリカのミッドクロップ見通しについて相反する見方がある一方で、需要にも依然として不透明感がある」と述べ、ここ数カ月のレンジの上限を突破した後を受けて、相場は方向感を探っているとの見方を示した。

【4月24日(水)】両市場とも横ばい

ココア先物は、ほぼ変わらず。西アフリカのミッドクロップの豊作見通しが上値圧迫要因となった。ニューヨーク市場の7月きりは、1ドル(0.04%)安の2326ドルで終了。一方、ロンドン市場の7月きりは、前日と変わらずの1550ポンドで引けた。

【4月25日(木)】両市場とも上昇

ココア先物は両市場とも上昇した。

ニューヨーク市場の7月きりは、34ドル(1.5%)高の2360ドルで引けた。

オプションセラーズ・ドット・コム ジェームズ・コーディア氏は、テクニカル面の力強さも投資家の買い意欲を刺激していると指摘。「上値抵抗線とみられる2400ドルに達するかもしれない」と述べた。ロンドン市場の7月きりは、5ポンド(0.3%)高の**1555ポンド**で終了した。英ポンドが対ドルで2カ月ぶり高値に上昇したことで、上げ幅が限定された。

【4月26日(金)】NY市場は小幅続伸＝ロンドンポンド高に反発

ニューヨーク市場は小幅続伸。空売りの買い戻しやテクニカル面での強さに支えられた。

7月きりは4ドル(0.2%)高の**2364ドル**で終了。一時は2375ドルまで上伸、昨年12月以来の高値を付けたものの、利食い売りに値を消した。ただ、安値では買いが入ったという。

ロンドンのあるブローカーは「市場は強いトレンドのあったところで値固めしている」と指摘した。ロンドン市場はポンド高に押されて反落。7月きりは9ポンド(0.6%)安の1546ポンドで引けた。

2、カメルーンの3月末までの輸出数量は前年対比12%増加(4/23)

カメルーンの2012-2013シーズンが開始した8月から3月末までの輸出数量が18万3300トンとなり、前年対比で12%以上の増加となっていることが、コーヒー&ココア評議会の統計発表で判明した。

世界第5位のカカオ生産国であるカメルーンは3月月間で8,046トンを出した。前月の2月は14,652トン、前年の3月は3,954トンであった。

評議会は2月には21社の輸出業者、3月には25社の輸出業者が輸出を行ったと説明した。

3月は、Union Trading International社が最大の輸出業者で1,705トン、続いて、Ets Ndong Essomba社が1,555トン、Olam Cam社が903トンとなった。

国内の磨砕業者の買付け数量は3月末までの合計で27,365となり、前年の同期間の28,036トンから減少した。

カメルーン国内には2社の磨砕業者があり、1社はSic-Cacaos社でスイスに本社をおくバリーカレボー社の関連会社、もう1社はCHOCOCAM社で南アフリカのタイガーブランド社の関連企業である。

3月にはSic-Cacaos社は99トン、CHOCOCAM社は54トンの買付けを行った。

カカオは、カメルーンの主要な換金作物で4つの地域で生産されている。中央地域と、南西地域がそれぞれ国全体の40%を占め、この2地域で80%を占めている。2010/2011シーズンは200,083トンの輸出数量であったが、昨年は長い乾季と病害の影響で180,000トンにとどまった。

***明日よりカメルーンへ訪問し情報収集を行ってまいりますので、この紙面にて再度ご報告いたします。**

3、コートジのカカオ豆着荷量、ほぼ前年並み、21日時点一品質に懸念も (4/22)

輸出業者が22日公表した推計によると、2012年10月に始まった今期のコートジボワールの主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は、4月21日時点で106万4000トンと、前年同期（107万8000トン）を下回った。

4月15～21日の1週間の両港着荷量は約1万5000トンと、前年の同週（1万3000トン）から増加した。着荷量は前年度とほぼ同水準だが、ミッドクropp（4～9月）期のカカオ豆の品質低下を懸念する声も上がっている。ある業者は「100グラム当たり平均120～130粒程度と、品質が大いに心配される」と指摘。一定重量当たりの粒数は豆の大きさの目安となり、同国コーヒー・ココア評議会（CCC）の規定では、輸出向けの基準は100グラム当たり＝120粒以下となっている。

***先週のニュースの補足情報として再掲載**

4、ブラジルカカオ着荷数量前年対比13%増加 (4/24)

ブラジルのカカオ豆の港湾倉庫への着荷数量（海外からの輸入も含む）が2012年5月より2013年4月21日までの期間で前年同時期と比較し、13%の増加となったことがバヒア商業協会の統計データの発表で判明した。

2012/13 シーズンカカオ豆着荷数量（5/1～4/21）単位；60-KG 袋

地域	先週	合計
Bahia	15,597 袋	2,993,290 袋
Other states	5,504 袋	986,101 袋
Other nations	0 袋	414,576 袋
Total（袋数）	21,101 袋	4,393,967 袋
Total（トン）	1,266 トン	263,638 トン

2011/12 シーズンカカオ豆着荷数量（5/1～4/21）単位；60-KG 袋

地域	先週	合計
Bahia	15,678 袋	2,170,467 袋
Other states	10,310 袋	828,669 袋
Other nations	0	896,053 袋
Total（袋数）	25,988 袋	3,895,189 袋
Total（トン）	1,559 トン	233,711 トン

5、アジアの第1四半期カカオ豆磨砕数量は前年対比 10.8%の減少 (4/25)

アジア地区での第1四半期のカカオ豆磨砕数量の統計がアジアココア協会のウェブサイトで発表され、前年の15万7千トンから10.8%減少し、14万62トンであった。

この発表にはその他の詳細情報はなかったが、先週発表された欧州の第1四半期のカカオ豆磨砕数量が前年対比3.9%の減少幅で33万9377トンに留まったことの影響がアジア市場の下落幅を大きくした可能性があると思われる。

6、ハーシー社の第1四半期の業績発表内容 (4/25)

- ・第1四半期の一株当たり利益は\$1.06であった。
- ・2013年度年間一株当たり利益の予測は\$3.52 to \$3.58
- ・第1四半期の売上は18億3千米ドル≒約1800億円（昨年同時期は17億3千米ドル）
- ・2013年度年間の売上は5～7%の上昇を見込んでいる。
- ・2013年の年間の粗利率は1.9%から2.1%の上昇を予測している。

今週の関連ニュース) ドル、100円目前で足踏み=海外勢や輸出企業が円買い—外為市場

ドルの対円相場が1ドル=100円を目前に足踏みしている。26日の海外市場では、98円を挟んでの取引となった。背景には、海外勢や輸出企業の根強い円買いに加え、海外の景況感に対する警戒感がある。

外国為替市場では、2012年11月以降、安倍政権の経済政策への期待から急激にドル高・円安が進んだ。今月11日の海外市場では、99円95銭までドル高・円安が加速。日銀が4日に新たな量的金融緩和を導入し「円の先安観が強まった」（銀行系証券）ためだ。

しかしドル円相場は100円を前に伸び悩んでいる。100円到達で損失が出るデリバティブ（金融派生商品）を抱える海外投資家が円を買い支えたほか、輸出企業も円安を機に海外で稼いだ外貨を円に交換した。米国や中国の1～3月期国内総生産（GDP）が伸び悩むなど、世界経済の先行きに不透明感が漂っていることも安全資産の円を売りづらくさせている。大型連休中は取引量が減るため乱高下しやすいが、市場ではドル高・円安の基調は変わらないとの声が多い。みずほコーポレート銀行の唐鎌大輔マーケット・エコノミストは「日本は貿易赤字が続いており、米国の経済指標も年後半にかけて改善してくる」として、ドル円が100円に達するのは時間の問題とみている。

***特徴的なチョコレート毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp